

令和4年度 とやま 21 世紀水ビジョン推進会議 議事概要

日時：令和4年7月22日(金)

13：30～14：50

場所：富山県民会館 611 号室

■ 出席者

【委員】

上坂委員、尾栢委員、武隈委員、田瀬委員、田村委員、張委員、中島委員、永森委員、南部委員、広田委員、藤井委員、藤本委員

【事務局】

広島生活環境文化部長、水落生活環境文化部次長、中井県民生活課長
ほか関係課担当職員

■ 会議次第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 「とやま 21 世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について

(2) 水源地域保全条例に基づく届出状況について

(3) その他

4 閉 会

.....
(1) 「とやま 21 世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について [事務局説明]

【議長】 御説明に対して、質問とか意見はございますか。また、説明以外にも、水に関する御意見があればぜひ御自由に御発言ください。いかがでしょうか。

説明で出てきた里山ですけれども、富山の里山というのはどういうイメージなのでしょうか。あるいは具体的にはどういう状況なのでしょうか。

【事務局】 富山の里山のイメージというのは、昔、集落内に薪炭林、杉とか、そういう木が生えて、それを伐採して炭にして、そこで何をやろうとか、そういうところをイメージしております。いわゆる、集落と山が、その生活圏の一部になっている山際というイメージでいます。

【委員】 富山県は非常に急峻で、そして、田んぼを今まで開発してきた経緯があって、実を言うと、かなり山の上まで水田を造ってございまして、関東のような日本の伝統ある里山らしいところはあまりありません。

富山の農村では畑を造ったり、雑木林でスギの葉を拾ってきて燃料にしたりするような地域はまだいっぱい残ってございまして、そういうのがベーシックの里山というふうに私は思っております。

【委員】 この春から、魚津市の片貝川の最上流の東蔵集落というところで、江ざらいですとか、用水の草刈りですとかのお手伝いをさせていただくようになりました。こういう活動があつてこそ、水資源が守られているし、お米も食べられるし、ありがたいことだなと、ようやく五十年生きてきて気づいたところです。

そこで、地元の皆さんは御高齢の方が多く、元気で御活躍しておられますが、やはり後継者について皆さん不安を持っていらっしゃると思います。

県でも、林業や農業で、ボランティアやサポーターの皆さんが現地に来て活動いただいているんですが、もっとさらに裾野を広げて、お父さん、お母さんが 30 代ぐらいで、子供さんが幼稚園とか小学校の低学年ぐらいのファミリーの皆さんをターゲットにして、バーチャル

ではないリアルな水を触るとか、飲むとか、そういった体験ができる事業がもっとあってもいいのかなと感じていたところです。

正しく、楽しく、安全に指導できる、恐らく富山県内にはいろんな指導の資格を持った方がいらっしゃると思いますので、さらにそこに水分野も併せ持っていただいて、やれたらよいなと感じておりました。

【委員】 流域治水プロジェクトのところでございますが、日々、土地利用は変化しております、例えば、近年の大型商業施設とか、宅地、新興住宅地建設とか、それに伴って当然ながら浸透状況、涵養状況等が変化していると思います。そのリアルタイムのシミュレーション、先ほどのデータはいつ頃のものでしょうか。

【事務局】 実際に浸水被害が生じている地域、そういったところは浸水の対策協議会を設置しまして、一部で流出解析とかシミュレーションをやっているところもございますけれども、県全体として、きちんと定期的にデータとして出しているかという、そういったことはございません。

【委員】 地下水位の観測の関係ですが、私どもの地元で聞くのは、地下水位が下がってきているということを知ると同時に、沿岸部とかですと、海の水が入ってきている（塩害）ということを知ります。ですので、単純に水位だけではなくて、塩害の関係も観測できているのかどうか、できていなければ、そういうところについても把握できるようにしていただきたいというふうに思います。

【事務局】 地下水位の観測で、沿岸部での塩水化の実態調査も行っております。実際に海水が入ってくると、イオン濃度が上がってくるといったことで調べており、それを見る限りでは、特に進行しているということはないと思っておりますが、引き続き注意深く見守ってまいりたいと思います。

【委員】 幾つかございますけれども、1つは、カーボンニュートラルの戦略の策定について具体的にはどのようなことを考えておられるのかということ。

それから、地下水位のテレメータについて、インターネットでデータを公表されるのかどうかということも知りたいということ。

それから、最後ですけれども、流域治水プロジェクトの策定において、水辺の生物多様性にも配慮してこういうプロジェクトも進めるというならいいのではないかと思いますけれども、その辺を詳しく教えていただきたいなと思います。

【事務局】 カーボンニュートラル戦略の策定については、今年度中の策定を目指して検討を行っており、これから小委員会などを開催して情報収集、パブリックコメントなどをしながら進めていくということです。

水関係の部分で、エネルギー関係では小水力発電、流域治水については気候変動適応という部分も含まれてくるかと思いますが、これから内容を詰めていくところで、現時点で具体的な内容はまだ示されていません。

【事務局】 テレメータの件でございますけれども、データ収集を自動化し、現在もテレメータ化しているところは県（環境保全課）のホームページでデータを公表しております。今年度新しく設置するのもそのようにしたいと考えております。

【事務局】 河道掘削や川の整備をするときに、環境にも配慮するということが河川法でもうたわれており、それに基づいた整備計画をつくり実施しております。ただ、いろんな意見が出てきまして、河川は治水を最優先で整備していくため、そことの兼ね合いはいろいろありますけれども、その中で環境をできるだけ守りながらやっているというのが実態です。

【委員】 先ほど地下水位の話が出ていましたけれども、観測井は今公表されているかどうか

か分からないんですが、どの帯水層の話をなさっているのか。第1帯水層、第2帯水層、第3帯水層か、どこで塩水化しているのか。また、そのデータは公表される予定はあるでしょうか。

加えて、今、塩水化等を解消できないのは、冬期の消雪時期だと思いますので、住民はどう？関係者はどう？ってやった上で公表することはできるのでしょうか。

【事務局】 地下水位の観測状況ですとか、地下水塩水化の状況につきましては、毎年、「地下水の現況」という資料を作っております。県（環境保全課）のホームページで公表しております。

例えば、地下水位、テレメータ化されていない所につきましては、2か月に1回アナログで観測しており、その年平均の結果につきましては、全部載せております。もちろん、テレメータが入っているところは1時間ごとにデータが更新されますので、それもホームページで見ていただくことはできます。

塩水化につきましても、海岸地域で調査しており、その結果も載せさせていただいております。特に昔から比べて進んでいるということはないということもデータとして載せさせていただいております。

【委員】 流域治水の件です。農業者側から言うと、田んぼダムという言葉がこの頃よく使われるようになりまして、田んぼに一時的に水をためて、そして、河川に流れている水のピークをカットしようという考えですけれども、富山県は非常に田んぼが多く、山の方まで田んぼになっております。その利用の仕方、利用状況とか、今後、それについてどうしていくのかということをお聞かせいただければと思います。

農業者側から言うと、作付に影響があったり、それから、田んぼダムをすることで農業用の手間がかかったりするというところで、非常にかかり増しの経費がついて回るということで、農業者側からはなかなか協力を得られないかもしれないということで、行政的な指導もしくは支援が必要かなと思ったので、ここで聞いてみました。

【事務局】 流域治水プロジェクトの策定の際には、土地改良区、農政局さんのほうに、どうですかというような話はしております。今策定しているプロジェクトではないんですけれども、白岩川のプロジェクトには、土地改良区さんが水田貯留をやってもいいですよということで、策定からまだ1年たっていないと思うんですが、すでに整備していただいたと聞いております。この取組については、白岩川のプロジェクトを更新する際に協議会を開きまして、載せていく予定です。

【委員】 分かりました。農業者側からの状況というのは把握しておられると思いますが、どうでしょうか。お願いします。

【事務局】 現在の富山県の水田農業の営農状況を見ますと、大体6割が水稲作付で、4割程度が転作ということで、いわゆる畑作物をやっているわけです。その畑作物については、水の滞留を嫌いますので、品質低下を起こしたり、あるいは収量が得られない状況になることがあります。実際の水稲作付が6割程度ということになりますと、なかなか面的な田んぼの貯留機能が得られないということで、やはりまず、田んぼダムに取り組むには、その地域の話合いの下に、面的な広がりを持って取り組んでいただくことが大事だと思っております。

現在、土地改良サイドの支援としましては、農地整備事業において、水田の大区画化・汎用化と併せまして、田んぼダム対応型の排水柵の設置を行っております。当該事業では、農地の担い手への集積状況に応じて促進費を交付させていただきまして、農家の負担軽減を図っておりますので、そういったところで田んぼダムに取り組みやすい環境づくりを行っているところでございます。

そのほか、大規模な農地整備事業に取り組んでいないところについては、国の方で、田んぼダムに取り組む定額助成の制度が設けられており、その活用に当たりましても、地域の営農計画等を勘案しながら、まずは地域で話し合ってください、面的な広がりを持って取り組んでいただくことが大事だと思っております。

といったことで、具体的に県から、田んぼダムを強制的に行ってもらいたいというような押しつけにならないように留意しながら、今後も田んぼダムを推進していきたいと考えております。

【委員】 分かりました。ありがとうございました。

【議長】 いわゆる流域の話とか、考え方とか、いろんなセクター協力してやるしかないですね。

【事務局】 先ほどの御質問で、井戸の諸元の御質問ですけど、帯水層というのは分からないんですが、井戸の深さそのものはデータが載っていますので、また御覧いただければと思います。

【議長】 富山県はたくさん小水力をやってきたけれども、総発電量としてはどのぐらいの意味があるんですか。

【委員】 総発電量としてはそれほど大きくはないです。全体を見たときに、日本の全電力消費量という母数を使っていくと、おおむね1%ぐらいかなというふうに我々は見積もっております。

【議長】 富山では？

【委員】 富山はもう少し大きくなるかなと思っておりまして、どれぐらい開発できるかがよく分からないという面がありますので、正確性は分かりませんが、全国的にはもちろん数%に達するかなと考えています。

カーボンニュートラルの関係で、利水という面で見ると、小水力発電所の開発を進めていくということだと思っておりますが、実現目標と達成状況を見たときに、小水力発電は令和3年の目標が45箇所に対して54箇所というふうに大きく目標を上回る状況で進んでいます。今後、令和8年に60箇所というのは恐らくすぐに達成されて、その後伸び続けるかとは思いますが、意外と農業用水を中心にした開発量が大きいんですね。

実は、富山県というのは、もう少し自然河川側にも容量がありまして、こちらの調査というのでも必要だと考えているんです。そういう意味で、この60箇所という数値を上方修正していくような可能性というのはないのかということをお聞きしたいなと思いました。

【事務局】 今ほど御指摘いただきました、現況に対してR8の目標が60箇所とすぐに達成できるんじゃないかというお話ですが、今のところ、有望地を調査しまして、可能性がある数値ということで60箇所とさせていただいております。

今、大幅に目標値を超えているのは、有望な区域からどんどん小水力がつくられているということで、今後はあまり適地でないところも進めていくのかなと思っておりまして、伸びが少し鈍化するのではないかと考えております。今後の進捗状況なども見ながら、目標に関してはまた検討させていただきたいと考えています。

(2) 水源地域保全条例に基づく届出状況について [事務局説明]

【議長】 何か御質問はございますか。

最近、円安で中国系の資本が土地を買い占めるというか、そういうことを聞いたんですけども、富山ではどうなんでしょうか。

【事務局】 今のところはそういったことはございません。

(3) その他 [事務局説明]

【議長】 全体についてでも結構ですが、何か御意見等ありますでしょうか。

【委員】 今、沿岸海域では貧栄養化になっていまして、栄養分が足りないと、二酸化炭素を吸収してくれません。実は、最近の結果でございますが、20年前に比べて、沿岸海域で吸収する二酸化炭素の量は半分になっております。1つは河川への排水、污水处理施設の整備によって9割以上汚水がカットされていまして、もう一つは、田んぼ由来の栄養分が減ったということがありまして、その緩和策として考えているのは、中山間部の活動です。

現在、魚津市、砺波市、南砺市の中山間部で地下水涵養事業をやっているとして、その証拠として数字を取っております。それを今後活用すべく、富山県と学術の間の連携が必要かと思っておりますので、カーボンニュートラルの貢献というところで、ぜひ御協力をいただきたくお願いいたします。

【事務局】 ご意見ありがとうございます。関係課へ伝えてまいりたいと存じます。

【議長】 海洋プラスチックの問題については、海辺で清掃しているという話を御説明いただきましたが、そのほか、川から出てきたものについて、何か対策とか、取組はいかがでしょうか。

【事務局】 県内の海岸の漂着ごみに関しては、県内の河川からの流出が約8割を占めていることが国のシミュレーションにも示されていまして、県内での河川からの流出対策が大事になってきます。

もっとそのごみを減らそうとすとか、海岸のごみを拾って清掃活動をしようというのをやってきたんですけども、特に近年は街なかをきれいにしないと川から流れてくるごみも減らないということで、海辺だけではなくて街なかできれいにしようという動きを強くしています。アプリを使ってごみ拾いをしようというのを呼びかけたり、様々な啓発活動をしています。

また、富山市さんの取組みになるんですけども、川に網場という網を仕掛けて、上から流れてくるごみをトラップするというのをモデル的にやっております、そういうのを設置することでごみが海まで流出するのを防げないかというのを試験的に展開されているところです。

【議長】 それでは、まだまだ議論をしたいところでもありますけれども、皆さんに熱心に御議論いただいて、幾つか非常に参考になるような御意見をいただきましたので、それぞれの担当部署に持ち帰ってご検討等いただきたいと思います。

以上